

末野須恵器の歴史

若狭町上中末野地区には、古くから須恵器窯址の存在が知られています。今までに14箇所の窯址が確認され、未確認のものを含め多数の窯があったと考えられ、この地が約1千年前の昔から須恵器の産地であったと考えられます。

若狭の海岸部に散在する製塩遺跡から各種の須恵器が出土しましたが、この多くは末野から運ばれたものであるとおもわれます。

須恵器生産は古代における一大産業であり古代若狭の窯業中心地は、まさにこの地、末野地区であり、現在水田が広がっている谷間には、ひっきりなしに煙がたちこめていたことでしょう。

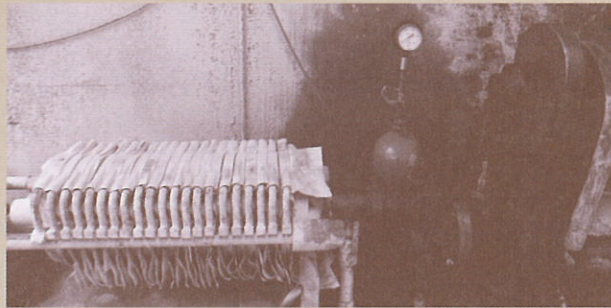
～ 陶芸体験～

粘土がでできるまで

- ① 作品に使う粘土は陶芸館のある谷の粘土層からけずりだし、乾燥させたのち水ヒします。



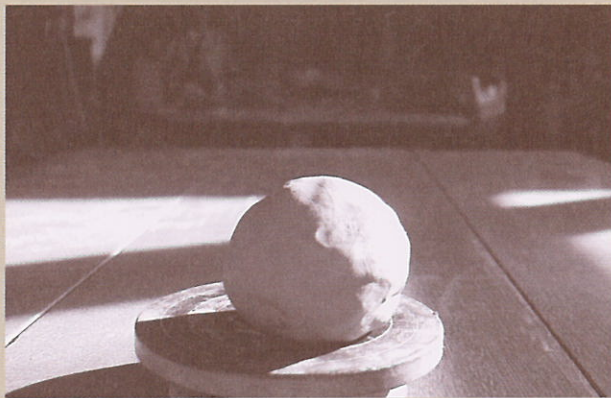
- ② 泥水となったそれをフルイにかけ、砂利や草木の根っこなどの粘土以外のものを除きます。
余分なものを除いた泥水を吸い上げ、厚い布袋に入れて、圧縮機で余分な水分を絞ります。



- ③ 扱いやすい粘度になった粘土を練器に入れ、こねます。



- ④ 粘土を棒状に切り分けて、土が落ち着くまで半年ほど寝かせたら、器などを造る粘土になります。



古代須恵器の里

須恵野焼陶芸体験

体験料金

1,500円

(粘土1kg・素焼・釉がけ・本焼き)

粘土1kgを使って作品を造っていただき、色づけをして、焼きしめて、完成するまでの料金です。
尚、完成した作品は着払いにて発送させていただきます。
作品を造る時間は、人それぞれですが、目安として2時間ほどです。

